

- | |
|---------------------------------------|
| ・日時 : 2018 年 11 月 6 日 (火) 16:30~17:30 |
| ・スピーカー : 取締役 最高財務責任者 (CFO) 松本 智樹 |

<拡販について>

Q.好調、不調な事業は何か

A.中国のカスタード・フィリング、各エリアのチョコレートおよびチョコレート用油脂、米国の低トランス脂肪酸油脂やサステナブル油脂、および大豆ミートなど高付加価値な大豆製品群が好調であり、これら戦略製品群が利益を牽引していく。ここに、東南アジアのコモディティ油脂等も販売を強めていくことで、グループ全体としての強さとなっていくと考えている。

<日本について>

Q.地震や台風など災害の影響は

A.1Q に約 ▲5 億円の特損を計上したが、その他の影響は限定的である。

Q.油脂事業は増益だが下期に弱含むのは何故か

A.17 年度の下期から今年度上期へかけて原料相場の動きが上期の増益にも寄与しており、下期前年対比では保守的に見ている。

Q.製菓・製パン素材の販売状況は

A.チョコレートの 2Q は、猛暑や災害等により冷菓や土産市場が弱含んだ影響で数量は対前年で減少とはなったが、前年並みの利益を確保したこと、また 1Q の好調もあり上期では増益となった。下期は土産市場等も回復を見込んでおり、堅調とみる。クリームは前期から底を打ったが、マーガリンは猛暑等の影響で需要が低迷し数量減となった。

Q.大豆事業の下期の見通しは

A.大豆ミートや水溶性大豆多糖類の好調が牽引する見込み。上期は修繕のため停止していた大豆たん白食品の再販の遅れが減益要因となったが、下期はがんも等冬場の需要期において予算並みの販売を計画している。

<アジアについて>

Q.上期の減益要因は何か

A.大半はシンガポールの調製品事業の乳原料相場と売価とのポジションの関係によるものであり、当初の見込みを下回った着地となった。下期は調製品事業によるマイナス幅は縮小の見込み。

中国はマーガリン、フィリングとも引き続き好調。チョコレート、クリーム等も今後の成長の兆しがある。また、新たに稼動した新工場も順調な滑り出しである。東南アジアにおいても拡販を進めており、クリーム等も堅調である。

<ブラジルについて>

Q.市場の状況と事業施策は

A.レアル安や景況の悪化による市場全体の落ち込みと競争環境の厳しさがある。強みのある市場での拡販戦略などによりシェアを確保し、利益を確保していく。

以上